

宮城県万石浦



写真. 万石浦に広がるアマモ群落

万石浦は種ガキ養殖などが盛んで、広大なアマモ群落の存在も確認されていました。津波後の調査でも、濃密な群落はほぼ無傷で残っていることが確認されました。万石浦の入り口は細い水路になっており（右図）、津波の影響が最小限に抑えられたことがその要因と考えられます



岩手県宮古湾

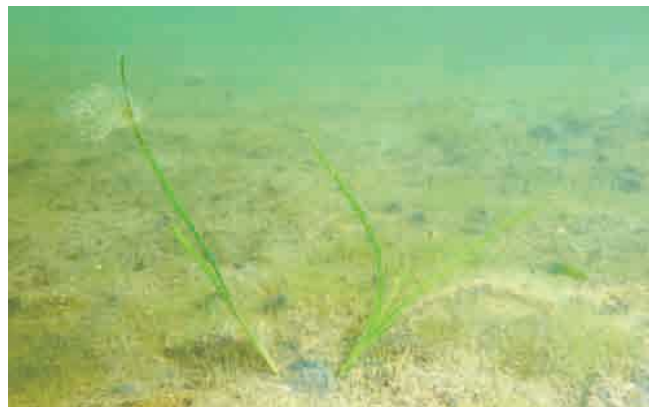


写真. 震災後の宮古湾のアマモ

宮古湾ではカキなどの養殖だけではなく、サケやヒラメなどの種苗放流が盛んに行われており、湾奥に広がる干潟やアマモ場は、稚魚の放流に適した場所でもありました。2011年6月に湾奥部と湾中央部で調査したところ、前者ではアマモの株はほぼゼロ、後者では2010年の3分の1程度まで減少していました

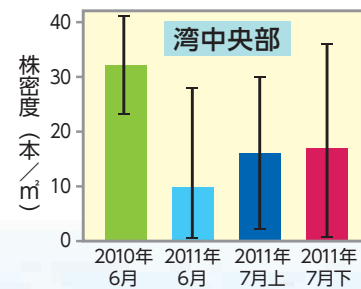
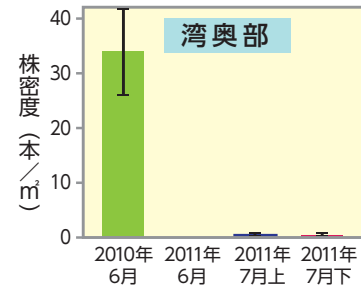


図. 震災前と震災後（2011年6～7月）に調査した宮古湾のアマモ株密度の推移
震災前の同時期と比べて震災後のアマモは減少していましたが、6月から7月にかけて少しずつアマモの株数は増加し、復活の兆しが見られています

今回の津波で宮城・岩手沿岸の各所に存在していたアマモ場の多くは壊滅に近いダメージを受けました。このことは先に述べた幼稚魚の成育場がなくなることを意味し、沿岸漁業へ与える影響は計り知れません。アマモ場の被害状況把握や、回復過程のモニタリング、アマモの回復につながる調査研究が引き続き必要です。今後も、水産総合研究センターはアマモ場の回復状況の把握に努めるとともに、その回復に向けた方策についても研究していきます。

宮城県鮫浦湾



写真. 鮫浦湾は太平洋に面した南三陸に位置し、震災前は湾奥が砂浜となってアマモが広く分布していました（2010年6月2日撮影）

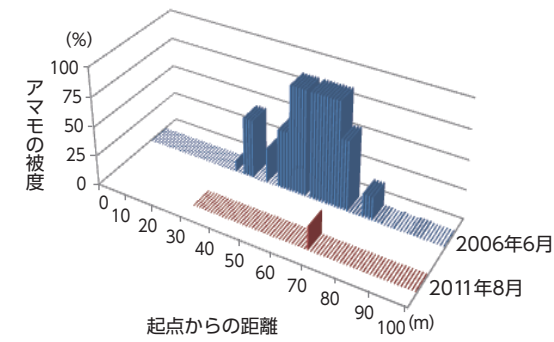


図. 震災前と震災後にアマモの生えている面積の割合である被度について調べた結果を比較すると、震災後、ごく一部を残して消失し、津波によりほとんどのアマモが流失したと考えられます

宮城県松島湾ヨバワリ崎



航路に面した海底。浮泥が堆積



カキ殻が集積

写真. 津波によって流失した松島湾ヨバワリ崎のアマモ群落

泥上にアマモが10年以上安定した群落を形成していました。津波後の潜水調査により、ここのアマモ群落もほとんどが流失し、浮泥が堆積したりカキ殻の集積地となったりしていました

藻場への影響 アマモ場が減少

三陸沿岸の湾奥の多くは砂泥質で、そこに根を張る海藻のアマモ類や甲殻類は幼稚魚にとって格好の餌となるため、魚類の成育場として重要な役割を果たしています。今回の津波はこれらアマモ場を

和らげ、葉上に付着する小さな藻類や甲殻類は幼稚魚にとって格好の餌となるため、魚類の成育場として重要な役割を果たしています。次第に明らかになってきました。どのように変えたのでしょうか。津波後の調査により、その実態が